

マタイの福音書 5:1-12.

八の至福：約束された祝福

5:1 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。

5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。

5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。

5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

5:11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせる  
とき、あなたがたは幸いです。

5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

## はじめに

先週のメッセージでは、イエス様の美しさについて話しましたが、その中で、この山上の垂訓を完全に実行出来たのはイエス様だけだと言いました。それはイエス様が持つておられるすべての人を全く平等にする完全な愛の美しさ だという話でした。 イエス様は 33 年間の生涯を通してずっとこの完全な愛の基準を満たされました。今でも、これを完全に実行出来るのはイエス様だけですが、ご自身の信者の一人一人の中でそれを実現する為に今日の教えを与えてくださいました。つまり、この教えはただの理想ではなくて、イエス様がこれを私達一人一人の中で実現されるおつもりなのです。イエス様は神様の愛を私達の心の中に入れる事によって実現させて下さいます。規則や律法を守る事によっては誰もイエス様の教えを実行出来ません。 イエス様は私達を縛る為ではなくて、律法から解放して祝福する為にこの教えを与えて下さいました。それで、日本語で八の至福と呼ばれるこの箇所は、すべて「祝福」という意味の言葉から始まります。

イエス様を第一に求める人は、この箇所に書いてあるすべての祝福を必ず体験します。

### 1. イエス様に幸いと言われる意味。

3 節「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

心の貧しいという意味について話しましたが、神様に対して謙遜になる事は神様に近づく第一の条件です。言い換えれば、神様に受け入れられる資格は何も持っていない事を子供のように素直に認める事です。

まず、3-11 節まで繰り返して書かれている「幸い」と訳されている言葉の意味について説明します。日本語の聖書は「幸い」と訳していますが、英語の聖書は **Blessed** として訳しています。

私達はイエス様にこれを言われたら、神様に祝福されているという意味です。日常生活の事情に基づいて幸せだというような浅い意味ではありません。そんな幸せは一時的なものです。イエス様はここで使っている意味は、永遠に変わらない神様の祝福の中に入れられているという深い意味です。イエス様が同じ言葉を使っている他の箇所を見ると、それが分かります。

マタイ 16:16-17 「シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」イエス様はここで、同じ「幸い」という言葉を使っています。イエス様が誰であるかを知っているなら、神様にそれを示されているから幸いなのです。人間の能力では決して知る事の出来ないイエス様についての真実を知っているすべての人はペテロと同じように幸いです。皆さんも、個人の体験でイエス様を生ける神の御子キリストとして知っているなら、当時の弟子達と全く同じように幸いです。神様の祝福の下にいるという意味です。神様の祝福の中に入れられている事はどんなに素晴らしい事であるかは、一日中話しても言い尽くせない事です。先ずは、すべての罪が赦されて天にあるすべての霊的祝福が与えられています。

今日、この話を聞いている人の中で、まだ、イエス様が誰であるかを自分自身の個人的体験としては知らない、または、まだ確信を持っていない、というなら、ペテロのようにイエス様を自分の救い主としてはっきり告白すれば、必ず自分の体験でそれが見える時が来ます。遠慮なくイエス様を自分の救い主として信じている事を告白して下さい。それは、イエス様に従う第一歩です。それは洗礼を受ける一番の目的です。イエス様の信者だと公に言い表す事です。しかし、洗礼を受けるまで待たないで下さい。イエス様を信じている事を隠している限り、イエス様も永遠に生きている神の子としてのご自身の姿を現されません。救いの確信を与えられる為にこれが絶対的に必要な事です。それをはっきりさせれば、神様の力が私たちの中で働き、悪魔に打ち勝つ勝利を与えられます。それで、イエス様はペテロの告白に対して、話の続きとして言いました。

マタイ 16:18 「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」つまり、神様の全能の力を働かせるのはクリスチャンの信仰の告白です。

黙示録 12:11 「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。」これは霊的な戦いにおいて悪魔のすべての力に打ち勝つ方法として書かれています。神様の小羊と呼ばれているイエス様の十字架の血と自分たちの証の言葉です。人生全部を話さなくても自分はイエス様の信者だという一言だけでも十分です。それをはっきりさせなければ、クリスチャンとしての勝利は体験できません。先に見た個所でイエス様が言った事と同じ言葉が書いてあります。

ローマ 10:9 「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」先にイエスを告白してそれから、復活の信仰の確信を与えられる、という順番が大切です。確信が来るまで黙って信仰を隠すなら、救いの確信は来ないのです。救われる条件はこの二つだけです。洗礼を受ける前に、教会員になる前に、はっきりした救いの確信を持つ事が出来ます。

個人の証。私も最初にイエス様を信じて受け入れる決心の祈りをしてても確信がすぐに来ませんでした。告白しにくい環境でした。当時自分の入っていた組織に対して裏切り者という扱いになる可能性もありました。最初は刑務所の中で政治犯の立場でしたから、皆の前で聖書を読み始めて、すぐ同じ組織の人に「クリスチャンになったのか？」と聞かれました。私は「はい」と答えました。そ

れだけでも、隠していないから信仰の告白として認められました。2週間聖書を読み続けてイエス様の復活をなかなか信じられませんでした。信仰の確信は無くても聞かれた時には、「はい、クリスチャンになりました」と言いました。聖書を読み始めてから2週間経った時に、聖書を読んでいる最中に、イエス様は本当に復活して生きている事と、同時に自分のすべての罪が赦されている事についての確信が与えられて、救いの喜びと平安で満たされました。これを体験する時に私達信者は、初めてイエス様がここで言っている幸いを体験として知るようになります。

## 2. 天の御国は、その人のものです。

マタイの福音書だけが天の御国という表現を使っていますが、他の三つの福音書はそれと同じ意味で、神の国という表現を使っています。マタイは元々イスラエル人に宛てて書かれたので、彼らに合わせてこの言い方を選びました。誤解をしないでいただきたいのは、これは、死んでから天国に行くという意味だけではありません。今、この地上にいる間も、既に天国に所属しているという意味です。マタイの福音書以外でも、イエス様の幸いという言葉の意味を見れば、分かります。ルカの福音書でよく似た箇所を読みましょう。

### ルカ 10:23-24

23節「それからイエスは、弟子たちのほうに向いて、ひそかに言われた。「あなたがたの見ていることを見る目は幸いです。」ここでは、イエス様は同じ「幸い」という言葉を使っています。そして続きます。「あなたがたに言いますが、多くの預言者や王たちがあなたがたの見ていることを見たいと願ったのに、見られなかったのです。また、あなたがたの聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けなかったのです。」ここに凄い事が書いてあります。その70人の弟子達全員が見ている事と聞いている事は、旧約聖書の時代には誰も見られなかったし聞けなかったのです。これは今、イエス様を信じるすべての信者に示されています。つまり、イエス様は永遠に生きている神様の独り子として人類の救い主である事を個人の体験として示されています。それは五官の目で見て耳で聞いているという意味だけではなくて、先ほど読んだ箇所のペテロと同じように、天の父なる神様から示されていて、心の目と心の耳がイエス様に対して開かれているという意味です。手前の21節にそれが明確に書いてあります。

21節「ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現してくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。」イエス様の心を喜びで満たした事は私達信者の心も喜びで満たすはずです。それが何かと言うと、誰でも神様の前で幼子のように自分を低くするなら、父なる神様はその人にイエス様の本当の姿を示して下さいます。この世の中で賢い者や知恵ある者として認められている人達は見る事が出来ないイエス様の美しさと栄光がすべての信者に現されています。全ての栄光がイエス様によって父なる神様に返される事こそ、イエス様の最高の喜びでした。さらに手前の20節をもう一度見て下さい。

20節。「だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではなりません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」私達の名前が天に書き記されているという意味を見て確認して下さい。

黙示録 21:26-27「こうして、人々は諸国の民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行う者は、決して都に入れない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、入ることができる。」聖書で神の小羊と呼ばれているイエス様の命の書に名

前が書いてある者だけが天国に入ると書いてありますが、死んでから名前がそこに書かれるのではなくて、イエスは現在形で弟子達に言いました。「ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」

イエス様を信じるすべての人は今、既に天国に所属しているから、神様の祝福の下にいます。それで、「心の貧しい者（神様の前でへりくだっている者）は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。」

### **3. 天にあるすべての霊的祝福。**

エペソ 1:3 「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。」イエス様の信者として天国に所属しているすべての人について書かれています。天にあるすべての霊的祝福がすべての信者に既に与えられています。

誰でもクリスチャンになってからでも、失敗したり、罪を犯したりする事があります。だからと言って神様の祝福から外されて神様の怒りの下に戻されてしまう事はありません。それだったら、恵みによる救いではなくて旧約聖書の律法の下にいるのと同じです。それについて使徒パウロは次のことを書きました。

ガラテヤ人の手紙 3:13 「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちに律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、「木にかけられる者はすべてののろわれたものである」と書いてあるからです。」私達は永遠に変わらない神様の祝福の中に入れられています。二度と呪いやたたりのようなものを気にする必要はありません。

天国に所属するとは、神様の子供になっているから、何があっても、自分で失敗しても、神様は味方として共にいて下さってすべてを乗り越えて勝利に導かれるということです。

ローマ人の手紙 8:33-34. 「神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださるのです。」その続きは長くなるので、短くまとめて結論を言いますと、「死も、いのちも、（どんなものも）私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」 こうして、あなたは幸いですとイエス様に言われている私達は祝福されています。

### **まとめ**

最初に言いましたが、イエス様を第一に求める人は必ず山上の垂訓に書いてあるすべての祝福を体験します。もしクリスチャンになっても、途中でイエス様を第一に求める事を止めてしまったり、他のものを第一に求めるようになってしまったら、その間に神様のすべての祝福を体験しなくなりますが、それは一時的な事です。救いの平安と喜びをなくしてしまう事もありますが、神様は真実な方ですから、悔い改めるように取り扱って下さいます。いつも平安と喜びに満ちた生き方は、神様の私達に対するみこころです。どんな場合でも、恐れや不安の中で生きるのは神様のみこころではありません。